

議員全員協議会会議録

平成28年5月13日

宮古市議会

平成28年5月宮古市議会議員全員協議会会議録目次

(5月13日)

議事日程	1
出席議員	2
欠席議員	2
議会事務局出席者	2
開 会	3
説明事項(1)	3
説明事項(2)	3
閉 会	7

宮古市議会議員全員協議会会議録

日 時 平成28年5月13日（金曜日） 午前9時30分
場 所 議事堂 本会議場

○

事 件

〔説明事項〕

- (1) 宮古市固定資産評価員の選任について
- (2) その他

出席議員（27名）

1番	今村正君	2番	小島直也君
3番	欠番	4番	佐々木清明君
5番	白石雅一君	6番	鳥居晋君
7番	中島清吾君	8番	伊藤清君
9番	内館勝則君	10番	北村進君
11番	佐々木重勝君	12番	須賀原千エ子君
13番	高橋秀正君	14番	橋本久夫君
15番	古館章秀君	16番	工藤小百合君
17番	坂本悦夫君	18番	長門孝則君
19番	佐々木勝君	20番	落合久三君
21番	竹花邦彦君	22番	松本尚美君
23番	坂下正明君	24番	茂市敏之君
25番	藤原光昭君	26番	田中尚君
27番	加藤俊郎君	28番	前川昌登君

欠席議員

なし

説明のための出席者

説明事項（1）

総務部長 滝澤肇君

総務課長 伊藤孝雄君

総務課副主幹 田代明博君

説明事項（2）

企画部長 山崎政典君

企画課長 菊地俊二君

議会事務局出席者

事務局長 野崎仁也

次長 佐々木純子

主査 菊地政幸

開 会

午前9時30分 開会

○議長（前川昌登君） おはようございます。ただいまから議員全員協議会を開会します。

ただいままでの出席は27名でございます。会議は成立しております。

お諮りします。

説明事項の1については、人事に関する案件でございますので、議員全員協議会運営要綱第3条第1項の規定により非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） 異議なしと認めます。よって、説明事項の1については非公開とすることに決定しました。

それでは、次第に従いまして会議を進めてまいります。

○

説明事項（1） 宮古市固定資産評価員の選任について

○議長（前川昌登君） 説明事項の1、宮古市固定資産評価員の選任についての説明を願います。

滝澤総務部長。

○総務部長（滝澤肇君） 宮古市固定資産評価員の選任に関し同意を求めることについて、ご説明を申し上げます。

固定資産評価員は、地方税法、昭和25年法律第226号、第404条第2項の規定に基づきまして議会の同意を得た上で市長が選任するものであり、これまで宮古市におきましては税務課長の職にある者を議会の同意を得て、選任をしてまいりました。資料の1ページをご覧ください。

今回、宮古市固定資産評価員として同意を求める者は、平成28年4月1日付けで税務課長に任命いたしました山崎忠弘でございます。住所は、岩手県下閉伊郡山田町船越第6地割87番地19、生年月日は、昭和34年10月8日でございます。なお、参考といたしまして、2ページに略歴書と地方税法の抜粋を添付しておりますので、ご参照願います。

以上、ご説明とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

○議長（前川昌登君） 説明が終わりました。

この件について、ご質問があれば挙手願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（前川昌登君） ないようですので、この件については、この後の本会議では質疑、討論を省略して採決したいと思います。よろしくお願ひをいたします。

では、退席願ひします。

○

説明事項（2） その他

○議長（前川昌登君） ここで、当局より、J R 山田線の門馬地区脱線事故の復旧工事に関する報告の申し出がありますので、これを許可します。

山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 皆さん、おはようございます。

昨日、盛岡におきまして、第4回斜面防災協議会というのを組織しておりまして、いわゆる門馬地区の斜面崩壊に対する対策協議会でございます。その中で、復旧に向けた一定の工法等の提示がなされました。

そこで、本日、報道もされておりますけれども、その内容につきまして、会議に出席した企画課長から報告をさせていただきますので、よろしく願いをいたします。

○議長（前川昌登君） 菊地企画課長。

○企画課長（菊地俊二君） おはようございます。

それでは、資料に基づきましてご説明申し上げたいと思います。

表紙をおめくりいただきまして、1枚目でございますが、昨日示されました斜面对策の工法等について、ご報告を申し上げます。

まず、1番目、斜面に関する技術的評価についてということでございますが、昨年12月11日に土砂崩壊が発生以降、12月13日には比較的新しいクラックが発見されたということで、これまでこのクラックの状況、いわゆる土砂のすべりの状況について、それぞれ調査等が行われてきたところでございます。

これまでのクラック計測、地中変位計測等、調査計測データを分析した結果でございますが、崩壊斜面上部にある3箇所のクラックにつきましては、現在も変位が進行している状況ということでございます。

地表の深さから10から20m付近まで風化層がございまして、すべりの動きはこの層の中にあることから、最大で幅約60m程度の範囲において、斜面のすべりが発生する恐れがあるということでございます。

このことから、引き続きこの計測監視は実施するという事になってございます。

それから、斜面の対策工法についてでございます。

現在は、斜面内への水抜きパイプの設置工事を行っておるということで、これを引き続き実施するとともに、斜面上部の土砂撤去やグラウンドアンカー工による斜面对策を実施するという方針が示されたところでございます。

今後におきましては、この対策工事の具体的内容について、関係機関で検討を進めて行くということでございました。

それでは資料でございますが、次のページは、昨日出されましたコメント案でございます。もう1枚おめくりいただきまして、別紙1をご覧くださいと思います。

現在の状況でございますが、下側の方が河川側ということになりますけれども、この下側の茶色の部分が土砂が崩壊をした部分でございます。それ以降クラックにつきましては、上の方から、ちょっと見にくいんですけども、クラックA、クラックB、クラックCということで3つのクラックについて、それぞれ計測等を行っているところでございます。この計測を行うために赤丸になりますが、7点ほどボーリングを行ってございまして、ここでそれぞれを計測しておるというところでございます。この結果、すべりのおそれのある範囲ということで、この緑色で囲んだ部分がすべりが想定される範囲ということで、ここについて対策を講じていくという内容でございます。

現在の状況ですが、水抜きパイプについてはこの青い部分については、水抜きのパイプ、雨が降った時にこのすべりといいますかが、若干発生するというところでございますので、水抜きパイプを設置して斜面内の水を少しでも抜くというのを、今やっているところでございます。新たに赤い部分については、今後、追加して水抜きパイプを設置するという部分でございます。

次のページ、別紙2でございますが、対策工の概要ということで、左側が閉伊川ということで、右側が斜面に

なります。

先ほど申し上げましたクラック A というところがこの上部の部分でございまして、進め方とすれば、この上部の斜面、これの土砂をまず撤去いたしまして、グラウンドアンカー工によりまして、安定をさせていくのを先行して進めるということでございます。それに並行して下の斜面につきましても土砂を取りながら同じような工法で安定をしていくという中身でございます。

以上が、昨日、示されました斜面对策にあたっての工法の方針ということでございます。

今後、前段申し上げましたとおり、対策工事の具体的内容については、詰まってくるということでございます。以上で、簡単ではございますが説明に代えさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○議長（前川昌登君） 説明が終わりました。この件について、特に質問等があれば、挙手願ひます。

松本議員

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○2番（松本尚美君） 企画部に聞くのも筋違いかなと思うんですけども、まず、この会議が定期的かどうかちょっとあれなんですけど、行われて、今日の新聞でもね、報道になってましたけども。まずは、JRさんは間違いなく山田線、今回の崩落地区っていいですか、この工事を実施して復旧するっていうことは、これは間違いなく動く可能性、例えば事業費ですね、これによって変化をする可能性っていうのはあるということでしょうか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） この工事に関しましては、現在、市として知り得ている情報の中では、JR単独ではなく、林野庁も協力をするというので、林野庁が国土交通省のいわゆる災害対策事業のメニューがあるんですけども、林野庁としてそれに手を挙げているという状況です。もう既にエントリーはしております。ただ、財務省の内示が最終的には6月上旬ぐらい、そして、財務省からオーケーいただければ、予算の付け替えが6月下旬ごろというような話をされております。そこら辺をどういうふうなかたちで、国費をどういうふうにするかという詳細まではまだ決まっておりませんが、そういうふうなかたちで動いておりますので、基本的にはJR山田線宮古盛岡間、これは復旧させるという意思で取り組んでいるということをご理解をいただいて間違いないと思います。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○2番（松本尚美君） はい、分かりました。岩泉線は事業費を含めてですね、最終的な判断になったのかなあというふうには思いますが、そうするともう一点ですね、宮古市として、企画として、復旧の時間がいつになるかっていうのは目途が立ちませんね、そうすると不通になって1年超えるのか2年になるのか、その辺も分からないんですけども、今代行バスで対応しているってことは当然なんだろうというふうには思うんですけども、宮古市に経済的に観光を含めてですね、与える影響はどんどん遅れることによって深刻化するということなのか、それとも適切な質問ではないのかもしれませんが、早く復旧して開通することが、宮古にとっては当然私はプラスになるのかなというふうには思うんですけども、その辺の影響はどのように推し測って、そして復旧の財源、事業費の問題もありますけども、これをどう早く復旧するのかですね、その辺はどのように分析をされていますか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 松本議員のご質問ですが、影響度ということまでは、推測というか計ってはいませんが、やはり観光面では大きな影響は出ているのではないかなと推測しております。と言いますのも、JRさ

んも、山田線従前4本のダイヤに合わせた振り替えというのが、本来の趣旨だとは思いますが、今、106の全ての時間帯のバスに対応できる振替表を発行しております。これはあまり従来のJRにはなかった部分です。ただ、首都圏辺りから当地方に観光に来る方、例えば大人の休日倶楽部とか、そういうのを使って来られる方にとっては、山田線が止まっているという認識というのは、あるとすればやっぱり宮古盛岡間の旅行には支障があるなど、振替をやっているというところまで調べて観光する方というのは、中々難しい部分があるかというふうに思います。従って、長引けば長引くほど影響の度合いというのは大きくなるだろうというふうに考えています。そこで、昨日こういったかたちの工法も示されましたので、今県と調整しておりますけれども、今月の下旬に岩手県、宮古市、盛岡市の三者でJR本社、それから林野庁、それから補助メニューは実は国土交通省のメニューを使うということで、この三省に対して早期着工、早期完工というようなかたちでの要望を行いたいというふうに現時点では考えております。

○議長（前川昌登君） 松本議員。

○22番（松本尚美君） はい、分かりました。後は、この山田線が振替輸送をやっていることによる三鉄への影響ですね、リンクする部分で私ほどまで理解しているかということ、中々三鉄さんとJR山田線がどの程度人の流れが影響というかリンクしているのかが読めないんですけども、企画とすれば、三鉄さんへの影響、今大変厳しい状況ですね、これは単純に今不通になっている山田線の影響を100%受けているというふうには言えないのかもしれないけれども、だとすればトータルとして再開するまでの間、その期間は別途方策を考えないとですね、やはりこの地域経済に与える影響というのが私は心配だなというふうに思うんですね、そこは別途、この復旧とはリンクはしますけれども、やはり宮古市としてもそこをどうするかということを考えないと、実行をしていかないと、可能な限り対応していかないと、これはリアス線、三鉄の経営にも当然、私は影響を与えるというふうに思うんです、良い影響では間違いなくないわけですね、マイナス影響ですから、そこはどう考えていますか。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 昨年は、盛岡久慈間において、JR車両と三鉄車両の相互乗り入れを夏季限定でしたが観光列車を運行しております。現実的には、今年の夏はそれは難しいということで、従いまして松本議員ご指摘のとおり、三陸鉄道にどの程度かというのは中々難しいところですけども、影響は出ているというのはそのとおりだというふうに思います。今回、やっとなら5箇月ちょっと経って、こういう工法も見えてきましたので、先ほど説明したとおり今月下旬のJRを中心とした要望も含めてですね、地元でもその間、どの程度工期がかかるのか、そういったところも見極めながら影響度もちょっと調べてみたうえで、必要があればそういう対策は講じていかないといけないなというふうに考えております。

○議長（前川昌登君） 田中議員。

○26番（田中 尚君） 本件についての質疑ということでございますが、私の方からは、前日JR東日本本社の方に出向きまして、私は議員として本社に要望をしまして、目標は、完成までの工期をはっきり示してほしいというのがございました。その際に、私どもが具体的に要望を申し上げた時期は、国体開催までということを一つの目標にしたいと思って率直な懇談をしまして、残念ながらJR東日本の方におかれましては、言わば工事関係者の安全だけではなくて、完成後に万が一のことがあってはうまくないということで、今週の民報にも紹介させていただいておりますけれども、工事関係者及び乗客者の安全を最優先して対応していくという答えでありましたから、国体に間に合わないなという感触をしてきたところでありますけれども、今山

崎部長の方からもお話しありましたように、国とのパイプの関係では、一つには国土交通省、それから林野庁、そしてJR本社、この3つの大きな団体がそれぞれ協議をして円滑な復旧に向けた事業に着手するというのをですね、やはり早期に実現をさせる必要があるというふうに、今報告を聴いて思ったところであります。工法を拝見させていただきますと、私が以前から提案をさせていただきましたように土砂のカット工法といいますか、撤去という部分も入っておりますけども、それらも含めて本社の方の技術担当の方には、斜面防止対策協議会の中でしっかり協議をして対応していきたいということでしたので、冒頭松本議員の質問にも触れるわけですが、この山田線についてはJRが責任を持って復旧をやっていくということは、これはいささかも揺るがないのかなという感触をしてきたところでもありますので、あとは早期完成が目標となります。具体的に公共団体の場合ですと予算にも関連しますので、これは具体的な工法が出た場合に、じゃあどれぐらいの時間がかかるんだと担当者の方がおっしゃってました。大規模な工事になればなるほど、あの場所を見たらですね、まず工事専用車両が入っていく場所が無いわけなんです、場合によれば106号が片側交互通行になるかもしれない等々非常にやはり大きな影響が予想されるなど思ってきたところでもありますので、そこはしっかり協議会の中ですね、目標とすれば我々やっぱり第一義的には国体のときに全国から来た方が、鉄道もバスも使うっていうそういうふうなインフラが整備されることが一番地元のPRになる、ひいては松本議員が問題にしたような三鉄の経営にもいささかの影響も出てくるということでもありますので、その点については市とすれば完成の期限、目標と言いますか、そこはどのようにお考えか伺います。

○議長（前川昌登君） 山崎企画部長。

○企画部長（山崎政典君） 思えば、田中議員がおっしゃっていることは、我々も同じように思うわけでございます。ただ、情報によりますと財務省が認めた場合に、国土交通省の予算を林野庁に付け替えるという方式をとると、それで先ほど説明したとおり、それが6月下旬ごろになるのではないかなど、そうしますと早くても着工は7月ということになってまいります。その場合に、7月あたりは準備段階、工事関係はお分かりだとは思いますが、そうなった場合に岩手国体までに完工というのは中々難しい部分がある。ただ、地元とすればですね、やはり一番危ないのはこの図面にも出てるとおり上部の滑りの土砂を除去すると、この部分は岩手国体までには、ある程度やっていただいてですね、安全に106を通れるという部分の担保が欲しいなど、5月下旬の要望に関しては、まずそういった部分を全面的に出しながら、早期完工は早期完工でお願いするわけですが、まず106を安全に通れるという担保が欲しいというところを中心にやっていきたいと思っております。また、情報とすれば、JRの盛岡支社の方では、既に閉伊川をまたぐ仮橋を工事のために架けるといって動いているようでございますので、JRとしてもやれることは、いわゆる国の予算内示を待たずにやっている状況にあります。

○議長（前川昌登君） それでは、本会議もありますので、この件はこれで終わりいたします。

閉 会

○議長（前川昌登君） その他、皆さまから何もなければ、これで議員全員協議会を閉会します。
ご苦労様でした。

午前9時54分 閉会

宮古市議会議長 前川昌登